

第208号
 BenHouse
 編集人 尾上大輔
 (記事はあくまでも編集人個人の私感で
 ございますので悪し
 からず。)
 www.benhouse.co.jp

「なかなか行けなかつた隠岐諸島サイク」

最近日曜日の朝6時からNHKで太平記の再放送を見ています。島流しされた後醍醐天皇が名和長年の助けを借りて島から脱出し公家の政権を復活し、建武の新政をひかれました。そんなお話にひかれて行ってみたいなかった。隠岐諸島。ついに先日実行できました。ツアーで行くなら伊丹空港から隠岐空港まで一路だが、こちらからチャリンコ隊なので大変だ。七類港から朝の2便で3時間。それも朝の2便と午後1便の2便あり。便せんがここに乗り越えて島のめがけ、難の木の曜日の夕方方

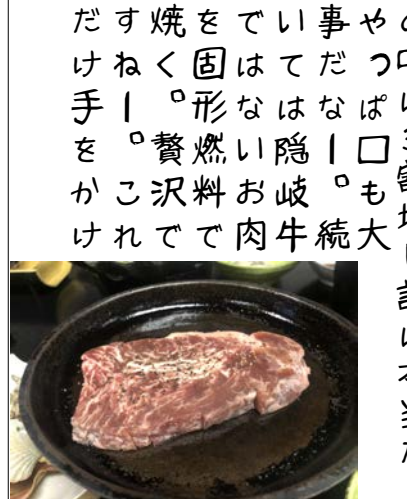


に米子駅周辺のビジネスホテルに泊。翌朝6時30分に七類港を目指しサイクリング。2時間かかるのでパングしたらアウト(乗り遅れる)。メンバーは解っちゃひやで走る。1時間前に到着、乗船名簿・切符・自転車ばらし(そのままで1千3百円の手荷物代をけちる)で30分。船とか飛行機は余裕を見とかないからね。今回は隠岐とくパツクというものは無料の特別切符が3千3百円也。GOTO関連で今が旅行のチャンスです。ね。9時30分フエリスで、にがのに乗って出発。ほとんどの乗客の皆さんは船室へ直行。自分の場所を確保して寝転がっている。これが行き慣れた人のスタイル。所取り争いは大やんば。片手にデジカメ、景色を楽しまな

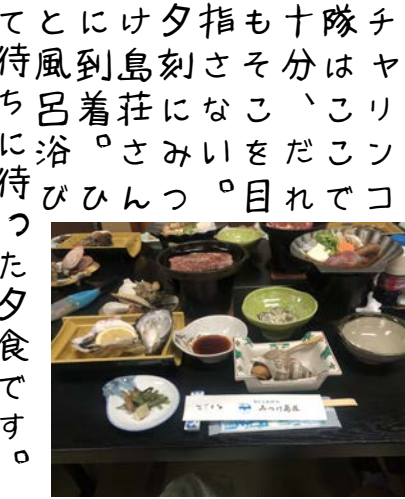
くちやね。2時間で知夫里島に到着。ここは人口も少しなく観光地も少ないので降りずにバス、ごめんな。12時西ノ島の別府港へ降り立つ。観光案内所もあり、賑わっています。政府からお金が落ちてくるようだよ。お昼ご飯も食べずに早速国賀半島へ向かう。よく写真に登場しますよ。崖の上の馬が放牧されています。隠岐の最大の広告塔であります。島なのでアツアツウンは多少あるが難なく(少し押し有)30分で国賀半島到着です。ローソク岩とが通天橋・摩天崖などの素晴らしい景色が眺められます。隠岐は大きな海底火山が爆発してできたカルデラの島々なので海岸により風光明媚な崖の上に馬が数頭草を食んでおります。これが観光ポスターにある展望所である。急登の道が予想され、



隊長はここでも十分、これを指ささない。夕刻に島荘さんけ到着。ひびと風呂浴びて待ちに待った夕食です。出てきたお料理の品数にびっくり。何からいただきましよるか？まずは姫路でありっかない岩ガキでした。うまい海の1し牛乳パツクです。ここで女将が登場、お料理の説明を事細かく。隠岐へ来たからには新鮮が魚介類と隠岐牛は必ず食べて帰ってくださいね。岐牛に近いオーストラリアのお肉で我慢して、だつて、笑いも交えて説明が続く。やつぱは女将の説明は料理の味は3割増し説は本当だよ。事はな。隠岐牛。焼く。固形燃料で



だけ手をかけ。隠岐牛。焼く。固形燃料で



ると「素晴らしーおいしがつたです」の声がないとやりがないし怒るよね。ようやく妻の気持ち解りました。これからは「美味しーい」の連発しますね。これは引いていえば自分に返ってくるもんな。魔法の言葉「美味しーい」ですよ。各々方ご理解くださいませ。翌日は8時の島内フェリーに乗り、10分で中ノ島へ到着。ここはリゾートアイランドとなっていて、港の建物がカッコいい。後鳥羽上皇の御所とお墓に参拝した後は、海辺のテラス席でさざえカレシのランチをいただきながら、追っかけてくるフェリー「くしが」を待つ。ナイス旅程でしょ。島後の西郷港までは1時間の船旅で13時到着。まずは島の中央部の隠岐郷土館へ向かう。片道12kmの山岳コースであります。島後は大きな島なので山は高い。「明るいうちに帰ってこれるかなー」の不安はつゆにも見せられず。リゾートは進むのであった。ハードコースは本日中にと破をかける。往復3時間で夕刻の暗くなるころホテルへ到着。ここで反乱が「今日は雑魚寝でなくて一人部屋に泊まりたい」との声がちらほらと。ホテルが古そうなので

ビジネスホテルと勘違いしたのかなー。交渉するも「全館満室です」のあたり前の返事。団体を引率する場合、こういうた事がむづかしい。唯一の一人部屋をじゃんけん決めて決める。1回目大ちゃんも勝利。しかし「勝った人がどうするんやうたけ？」だった。ウツウツやる。ルールが説明されてなかったと、しようがないのでルールを決めて再度じゃいけん。また大ちゃんが勝利。「ヤリ強いね、ここぞという時のじゃいけん今日もぐつすりです」。夕食はフロントのお姉さんに聞く「おいしいとどこ何処？」「ちよつと高いですが点さんがいいですよ。電話したげましよう」なんてラツキー。メンバーの大方はサンデー毎日の年金族。余命は心もとないが金はたっぷり時間もあり。早々にホテルに到着。お魚がカウ



と酔ったろう)さんが魚喰いなので全面的にお任せです。あこー・活きたコ・活き鯖の刺身がやってきました。皆さんこれは美味いと舌鼓をうつも、大ちゃんはお任せといいながら、高級すぎて口に合わない。刺身はイカがマグロが専門なので、大ちゃんも白いカの刺身と芝海老のから揚げをオーダー。うんこれは普段の味でおいしー。その後のどくろのお寿司が一人に4巻ずつ登場。新地で食べたなら1万円だが、高級品だから好みとは限らない。1巻を味見してあとは好きな人に差し上げる。「もつたいを喜ばない人が食べるのももつたいない」もんね。最後に出たあら煮は美味かったな。これは家で出ない料理ですね。お代金は一人7千円だったかな。皆さん大満足



の大満足。しかし翌日にはあの店の名前もなかつた。なんて質問が。「往生しまつせ」人間の記憶力は味覚↓視覚↓知覚の順に弱くなつていくよ。うでありました。ビジネスも同じかも「文字情報は弱い、利用感を大事にしなくつちやね」と、勉強になりました。職務仕様、隠岐旅行も視察旅行として計上してもよろしいでしょう。ななて都合のいいことはだめです。翌日のランチは海辺のテラスレストランで隠岐牛ステーキ井をいただき幸せ。これでお支払いを1日使用期限切れた地域クーポンを使つちやつたんです。でもこれは佐々陽太郎さんの「店は別に1日位期限が切れていても損はしない」というささやきにそのかされました。フライピンの店員さんごめんね。もう二度とあなたのお店ではしません。反省！。これで隠岐旅行も無事終了。皆様もぜひ隠岐諸島お尋ねください。ね。島の人はすごく親切であります。

